

快光院だより

令和 8 年盛夏 第 1 3 7 号

浄土宗
Jodo Shu
Buddhist Denomination

至心称名 南無阿弥陀仏

【仏像は一刀ごとに三度頭を下げて拝みながら
ほりすすむものだ(一刀三礼)といわれている】

気の長い話ですが、そのくらいの敬虔な態度でなければ、仏の心が入り拝む人の心を打つ仏像は出来るものではない、という戒めです。

(大室了皓著、一心で写すー)より

快光院山門を入るとすぐ左側に昭和 51 年秋再建の観音堂があります。時代を遡ること松平家家臣、坂田氏四男の当寺 8 世観譽辨義が 7 歳にて 6 世到譽辨龍に弟子入り、18 歳(1741)のとき関東修学の旅に出ます。江戸在中に恵心僧都源信(平安中期、比叡山横川^{よかわ}の高僧)作と伝えられる木造の聖観世音菩薩立像に巡り逢いこれを求め持仏とします。在東 25 年もの修学を終え帰島した辨義は当時の地蔵堂に安置、以後観音堂とよばれます。天明 3 年(1783)下新丁より出火の大火では本堂、庫裡は無事でお堂が類焼し尊像に火傷が残ったものの本体は無事。続いて寛政 4 年(1792)の「大變」の大津波の折、本堂、庫裡の流失にもかかわらずお堂は無事で尊像は一時堂外へ流されたが無事でした。また天保 7 年(1836)、またもや下新丁出火の大火で本堂、庫裡が類焼し全焼の時もこの観音像は無事でした。

この再三の災難を免れた御尊像として崇められ今日も参詣者が絶えないこのお堂が長い歳月に老朽しこの再建を発願させて頂いたのは前住職で 60 歳代の時。まだ元気な頃で最後の建物にと願い、その後檀信徒有縁の皆様から浄財を頂け、檀信徒で宮大工の技術を持つ同じ萩原の片山半蔵氏(これまでも長年に渡り当寺の建物

の修復、保守に携わって来られました)に棟梁をお願いし^{ほうぎようづくり}法形造として同年秋立派に完成。これを最後の作品にと、前住職同様のお気持ちでした。

落慶当日、多くの皆様方御参席の中、新築のお堂で落慶開眼式、本堂で落成奉告法要と祝賀会を。そして城西中ノ丁在の日本舞踊師匠の若柳吉巳朗師(伊藤彌平氏)が記念の祝舞を、とよき歓喜日でした。今、観音堂には中央に聖観世音菩薩像一体、その横に地蔵菩薩、西国三十三ヶ所の各菩薩像、片山半蔵氏手彫造奉納の十七体の観世音菩薩像を中心にお祀りしています。十七体中の一体は昭和 52 年秋、私が島原を離れる時、片山氏のご自宅にご挨拶に伺った折涙を流され私へ賜ったお像でした。そして御縁有り 4 年後の 5 月再び帰島しご挨拶に伺った時は自宅で病床にありご家族の介護を受けておられましたが安心されたご様子でした。そして数日後、八十六歳の生涯を終えお浄土へ参られました。戒名・大達院棟譽崇建梁規居士 南無阿弥陀仏。

ご挨拶が遅くなりました。皆様お元気にお過ごしですか。九州北部梅雨入り前、いきなり暑い日がやって来て脱水症状で数日ぐずぐずしましたが今は元気です。当地方梅雨明け二日後の今日(7 月 13 日)西日本は連日凄い暑さです。ここ数年少なかった台風、強風も今年は違い、そしていろんな感染症も要注意と気を引き締めています。皆様もどうぞご尊体呉々も御気をつけられてください。合掌

令和八年七月中旬 快光院住職 永野寶信

最近、掃除機を購入しました。その掃除機には先端のところにライトがついているのですが、暗い場所で使うとホコリがよく見えてとても便利です。ですが、ホコリ以外にもフローリングの傷までもはっきりと見えて知らずのうちにこれほどまでに傷ついていたのかとビックリすることもあります。

暗い部屋のカーテンを開けると日光が部屋を照らして、同時に室内に漂うハウスダストが光によって目の前に現れるように、照らされて気づかされることが生活の中で皆様もあると思います。

私は仏様の前でぼーっとただ座って過ごすことがあります。「仏様という存在は私のことなど全てお見通しなのだろう、ウソもなにもつけないな」と思いながら座っていると自分の中のホコリに気づかせてもらえるのです。ただただ静かに仏様を眺めているだけなのですが、気づいたら自然と自分の内面と向き合っていて、「あのときの言動は不適切だったかも」など“心の中で気にしていること”が脳裏によぎってきます。

浄土宗の本尊「阿弥陀如来」は「無量光仏(むりょうこうぶつ)」という別名があります。計り知れないほどの光を放ち皆を照らす仏様という意味です。なので、その光が私を照らして自分の至らなさに気付かせてもらえているのだろうと私は思っています。

お盆行事日程

○8月初旬～12日 初盆家棚経(島原半島以遠)

※日時についてはご相談ください。

○同13～15日初盆家棚経(島原半島内)

○同14日 午後6時半頃から 初盆家境内墓地・位牌堂巡拝

※境内墓地⇒新墓地⇒位牌堂の順に参ります。

※悪天候の場合は15日午後4時頃より巡拝いたします。

○その他、お盆期間中に不定期ですが本堂にて読経を勤めております。



お盆や精霊棚について詳しくは右のQRコードからご覧いただけます。



お寺行事

○7月25日 当寺別時念仏会(午後2時)

○9月18日 当寺観音堂御縁日(午後2時)

○9月21, 22日 当寺彼岸法要・大施餓鬼会

○10月25日 当寺別時念仏会(午後2時)

お稚児さん募集中!

来年、**快光院**で島原市仏教会主催「花まつり」の中で稚児行列が執り行われます。

・日時：2027年4月4日(日)

・対象年齢：1歳～12歳

・参加費：4,000円

ご不明点あればお尋ねください。



浄土宗 演暢山 快光院

〒855-0851

長崎県島原市萩原1丁目1227番地

電話：0957-62-2742

Fax：0957-64-6624

Mail：kaikoin.temple@gmail.com

郵便振替：01770-4-92594